

平成28年度 乙訓圏域障がい者自立支援協議会

地域生活支援部会 活動報告（案）

1 設置の目的、役割等

乙訓圏域障がい者自立支援協議会発足当初より、この部会は障がいのある人々が安心して暮らせる地域社会の構築を目指して設置されました。これまで、障がいのある人の日中活動の確保、子どもたちの放課後の過ごし方、不足している短期入所やグループホームの確保等について検討を重ね、さまざまな取り組みをしてきました。

2 昨年度までの経過

(1) 協議事項

平成27年度は、平成26年度に実施した緊急時対応アンケートの整理、地域生活拠点について協議し、取り組みました。緊急時アンケートの整理については、引き続きワーキング会議チームで検討協議しました。

アンケートの整理では、委員を3つのグループに分け、グループワークを行い、どのように解決したのかを軸に、ケースごとに「家族の努力で済んだ」、「公的な支援を利用した」、「何もできず済んだ」、「その他」に分類し、何があれば良かったのか等を議論することで、それぞれの内容についての理解を深め、今後どのように進めいくのかの意見がでました。

アンケート回答を分類することで、障がいのある人とご家族が緊急時にどのように対応されているかを整理し、その結果「何もできずにいた」「私的に解決した」対応が8割近くあり、「事業所や機関等の支援を受けた」ケースが少ないことが明らかになりました。

「平成25年度から課題とされてきた生活介護のサービス供給量が不足しているという課題については、平成27年度の向日が丘支援学校からの情報提供により、現状のままでは平成28年度卒業生の生活介護利用希望に応じることが困難であることが明らかになりました。」平成26年度の報告書での「障がいのある人自身や家族が希望する選択が可能になっていくことがべき」という意見が実現できるように、また、支援学校卒業を見ずえた進路希望や決定がスムーズに進むよう、早期に不足が見込まれるサービスを確保することについて、具体的な対応が求められることを課題として確認されています。

七ました。

(2) 報告事項

① 向日が丘支援学校生徒の進路指導状況

平成27年度の向日が丘支援学校高等部3年生は21名で、卒業後の進路先が報告されています。21名の内訳として、生活介護事業所6名、就労継続支援B型事業所・就労移行支援事業所9名、就労継続支援A型事業所・就職・高等技術専門校(訓練校)6名となっています。

生活介護については、事業所からは平成28年度は身体障がいの利用の枠に若干、空きがある予測と報告がありました。一方で向日が丘支援学校からは、平成28年度高等部卒業予定者に身体障がいの生徒はいないが、知的障がい(重度)の生徒が複数名いるため、定員に空きがない状況にあるとの報告がありました。また、卒業してから就労や社会生活へのより良い適応や人格形成をめざすために、「京都市内にあるプエルタのような学びの場としての自立訓練事業の設置を圏域内で望む声が多い」という報告がありました。さらに、就職を希望される方が増えており、一般就労へ向けたステップアップや地域での職場開拓の必要性が高くなっていることが報告されました。来年度以降の進路先も、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所、就職、訓練校が多くなると予測しているとのことです。

② 就労継続支援B型事業所を利用する、特別支援学校在校生に対する就労移行アセスメントの実施について

平成27年度は就労移行支援事業所が就労移行アセスメントを行ったが、おおむね順調に実施された。平成28年度も今年度と同様のスケジュールで行う予定であるとの報告がありました。

③ 生活介護事業の確保について

生活介護については、利用定員が不足している現状について平成25年度からあげられています。平成26年度の報告においても、今後の継続課題として確認されています。

平成27年度でも乙訓福祉施設事務組合よりその後の検討状況が報告されていますが、生活介護事業を拡大するかどうかも含め、2市1町との協議では結論に至らず、平成28年夏頃を目途に結論を出す予定であるとのことです。

この報告に対して、「保護者の立場としては夏まで待って『出来ない』という結論が出されるのでは大変困る。その点を踏まえて協議を進めてほしい」という意見が出されました。

④介護職員初任者研修について

平成27年度の介護職員初任者研修は、新しく長岡京市社会福祉協議会が実施主体となり、合計7名が修了しました。今年度も受講生がとて^{まじ}も少なく、受講生を増やす工夫が必要であること、修了した人が新たに乙訓地域で働いてもらうことが課題であるとの報告を受けました。

3 今年度の取組状況

(1) 部会

第1回部会 平成28年7月5日(火)

- (議題)
- 1) 部会長 副部会長の選任
 - 2) 昨年度の活動報告
 - 3) 今年度の進め方

第2回部会 平成28年9月2日(金)

- (議題)
- 1) 「緊急時アンケート」のまとめと結果の返し
 - 2) ショートステイ・日中一時の事業所からの報告
現場

第3回部会 平成28年10月31日(月)

- (議題)
- 1) 「緊急時アンケート」のまとめと結果の返し
 - 2) 「緊急時アンケート」に対する今後の取組みについて
対応についての

第4回部会 平成28年12月9日(金)

- (議題)
- 1) 「緊急時アンケート」の結果報告について
 - 2) 支援校卒業生の進路について
 - 3) 生活介護事業所の利用状況
 - 4) 今後の取組みについて

第5回部会 平成29年2月1日(水)

- (議題)
- 1) 今年度の取組みのまとめについて
 - 2) これからの取組みについて

(2) 作業部会

第1回作業部会 平成28年8月10日(水)

(議題) 1)「緊急時アンケート」の返しについて

第2回作業部会 平成28年10月3日(月)

(議題) 1)「緊急時アンケート」の返しについて

↳ 今年度の協議内容

(1) 協議の概要

平成28年度も、引き続き緊急時アンケートについての整理を中心に、アンケート報告ができるよう議論を重ねてきました。

圏域の生活介護事業所の空き状況や、短期入所事業所、日中一時事業所からの利用状況報告がありました。

(2) まとめ

今年度、課題となっていた内容を整理した上で、アンケートを返すことはできました。利用者からの声を直接聞くことができ、非常に意味のあるアンケート内容でした、

ただ、今回の報告にいたっては、アンケート当事者の意見に対しては触れることはできませんでした。引き続き部会にて取り上げていきます。

【今年度報告を受けたこと】

若竹苑生活介護事業の利用について

以前からありました若竹苑の生活介護事業の利用増については、生活介護の定員増とはせず、平成29年4月からは、現在の日中一時事業の定員増を検討していくという報告を受けました。

5 次年度の課題と方針

アンケートの希望する内容の中でも土・日・祝日問わずいつでもスムーズな支援につながるような体制整備を期待するものも多数ありました。次年度、地域生活支援部会において「地域生活拠点整備事業」について取り上げていく方向です。

【添付資料】

資料1 緊急時対応についてのアンケート、緊急時分類と対応分類（家族等の理由により、緊急対応が必要になった場合）